

数年前に、坂井先生が「久田、これめっちゃくちゃ解りやすいと思わんか？」と僕に見せてくれました。それ以来、よく講演会等で見ると必ず、確かに、凄く解りやすい図ですよね。足りない力がある場合でも、それぞれの矢印を伸ばす事で、体積を増やすことが出来る。

それが縦長になっても横長になっても体積が同じならば、持てる能力は同じ。う〜む解りやすい。この図がもっと世に広まりますように・・・
久田

第 78 回 『わかるように伝えていきますか』

香川大学 坂井 聡

社会参加するには力が必要である

人間は障がいの有無に関わらず誰もが力をもっています。一般的にはその人自身もつ能力といわれるものです。ここではその人もつ能力というものを三つの違った方向で表現してみたいと思います。

一つは、発達とともに進んでいく方向です。その人自身もつ力のことになります。理解力やコミュニケーションの力、体力などもここに含まれるのではないかと思います。この力の方向は、この力は成長とともに伸びていくと考えられるので、ここでは上向きの方に力をとってみることにします。そして、力がつけばつくほど、その矢印が上方向に大きくなっていくことになります。

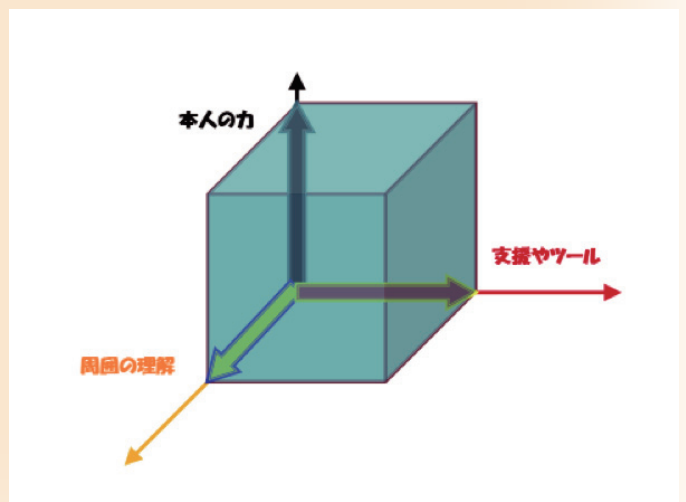
もう一つは、私たちが利用している支援やツールによって引き出される力の方向です。裸眼では小さい文字を読むことができない人は、眼鏡をかけて視力を矯正し、それまで見ることができなかった文字を読むことができるようにしています。コンタクトを使っている人も同様です。このような人は眼鏡やコンタクトというツールを使うことによって、本来もっている能力を発揮することができるようにしているということになります。これは、考え方によっては、環境を整えることによって引き出された力だと考えることができます。

そしてもう一つの力です。この力は、その人自身が理解されることによって引き出される力です。周囲の人にその人自身の力と、その人が利用している支援やツールも含めて理解されることによって引き出される力、つまり、周囲の人によって認められることによって引き出される力のことです。この力は周囲の人の理解が得られれば得られるほどその方向に向かって力は大きくなるということになります。

それぞれの方向に示された力を一辺とすると、図のように、そこに一つの直方体を作ることができます。それぞれの力を一辺としたときにできるこの直方体が、本人のもっている本当の力を表す器であると考えることができるのです。

また、それはその人の持つ生活の質であるとも考えられます。

つまり、この直方体の器で示された容積がその人の能力であり、生活の質ということになるのです。



坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション (やまびこの里) クラスルームコミュニケーション (こころリース出版会) 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア (エンパワメント研究所) など